

「生きる力」を育む「確かな学力」の向上への取り組み
 ～ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善を通して ～

座間味村立座間味小中学校から一報の電話が入った。正直言ってホエールウォッチングしか思いつかない本島の南の離島である。今年度赴任した新校長新垣剛志先生が、校内研が「主体的・対話的・深い学び」となっているので、「学び合う」授業づくりにおける講師の依頼であった。



那覇の泊港から高速船を使って90分の船旅の末たどり着ける、のどかでゆったりとした時間の流れる南国の島である。右の写真21日の帰りに学校に寄らせてもらって、幼稚園生が鯉のぼりを揚げていた。わたし達学校と教師たちは、この子らにどのような未来を準備できるだろうか？さらに、未来に向けてどのような力(生き方)を身に付けさせたらよいのだろうか？純粋無垢なこの子らの未来づくりに向けて座間味小中学校の教師たちの挑戦の始まりである。

さわやかな風にさそわれ幼稚園生と1年生が元気よく鯉のぼりを揚げている様子を、中学生は校舎のベランダから見守っていた。このやんわりとした空気、関係性が島の宝とも言えるのではないだろうか。

[幼稚園] 私の好きなフランスの教育学者の言葉がある。「私の人生の生き方の術は、すべて幼稚園の砂場で覚えた。」バツタを捕まえて、仲間と見せ合う



園児たち。縄跳びの練習に励む子たち、自分ではできなくても友達へのアドバイスはバッチリ！まさに幼稚園生、自分のことはさておきである。大人だと「あんたは…」と言いたくなるころだが、子ども達の中では受け入れられる。園児の方が大人よりほんとの「生き方上手」なのかもしれない。



[コの字に構えられた1年生の教室]



4月ではあるが1年生の教室はすでにコの字型の学習形態になっていた。研究主任によると前年度から校内研を「主体的学び・対話的学び」に設定しているという。さて、なぜコの字にしているのでしょうか？大切なことは、コの字にする目的や意義がしっかり理論に基づいているかである。これまでの一斉授業では「子ども達の教師の話の聞き方」が問われてきたが、



「対話的学び」ではむしろ、子ども同士の話の聞き方、つまり仲間との対話を成立させることにその目的が置かれている。最初は形から入ります、ゆっくりその目的や意義を踏まえた形づくりを気にかけていってください。右上の写真、机と机の間が気になります、低学年はくっつけばくっつくほど「安心」と言われます。



子ども達の安心のためにも、いつでも仲間依存できる環境をつくってあげてください。おしゃべりは、教師の話がつまらないときや、同じ話が繰り返されると、そして課題がつまらないときに多く発生します。

しっかりした(明確な)課題を子ども達に下ろし、「分からなければ友だちに訊く」という言葉を促し、子ども達に預けてみましょう。学び合いを成立させるためには子ども同士の支え合う力に依存しなければ達成は不可能です。子ども達の力を信じてあげましょう。右下の写真、教科書のページが分からない子に教えてあげる仲間です。「こっちだよ…」かわいいですね。

[5年生 社会科] 小中学校のため中学校の社会科教師が高学年の社会科を受け持つ。

中学校の教師が小学校教科を受け持つ、どんな心境だろう？授業者は子ども達をグループにし、課題解決の授業スタイルで授業を進める。自分たちで解決することを義務付けられた子ども達も必死になって解決に向かう。教室中央に座り学びに滞りを察したら必要に応じて子どものケアに入る(下写真)。学び合い支え合う授業づくりの基本スタイルである。

現在は単に調べるための協力的学習であるが、まずは互いに課題に向き合い協力することが大切である。



今後「学びの質」について、研究を深めていきましょう。

右写真、夢中になり聴き合う仲間です。期待できますね。



[2年 算数] 空位のあるたし算のひっ算



今年度、本島那覇市の小学校から赴任してきた。幸いに前任学校でも「学びの共同体」の理論による授業づくりが校内研のテーマであった。ところ変わっても同じ理念や理論で授業経営ができることは幸いとする。ましてや、今年度より試行される学習指導要領においても「対話的学び」、「深い学び」へのシフトは授業改善の大きな視点となっている。

授業では、コの字の形態で、ペアや3人によるグループ活動が仕組まれていた。3人で寄り添い発表用のボードを書き上げていく。右の写真、発表のために前に出たが、さらに「きき合う」仲間である。

ペアやグループの目的や意義、共有することの意義、発表と対話の違い、話し合いと学び合いの違い、教え合いと学び合いの違い等、まだまだこれからの座間味小中である。

職員室の全教諭が同じベクトルで子ども達の学びの保障のために研究を深めることに期待する。決してあってはならないことは、職員室の一部の教師の徒労にだけはしてならない、子ども達に支え合うように分かち合ってもらうためには、まず職員室すべての同僚が支え合うことが手本となるべきである。



[中学校 数学]

頑張れ研究主任！ 研究主任のポリシー、プライド、使命感を感じた授業である。



生徒の顔が終始穏やかで安心して訊き合っている姿を確認することができた。「分からない」「教えて」を言える教室を準備するのは教師の使命である。生徒たちは何の違和感もなく互いに訊き合い、支え合っている。この教室の生徒達をモデルにし全教諭で授業研究することを進めたい。



研究主任の進むべき方向は間違っていないことは確かである。授業の良し悪しは、生徒の表情や交わされる言葉（対話）で決まる。しっとりした穏やかで安心できる授業とはこのような空気に包まれている教室でしか達成できないものである。この教室で唯一柔らかさと穏やかな表情が確認できなかったのは授業者だけである。（それでもいい）

[中学校 英語]

研究主任と同調のベクトルを感じる。



何よりももまずすべての生徒が楽しく授業に参加していることがうれしい。授業者とALTとの呼吸もあっている。授業者の授業づくりへのこだわりが見えてくる。

夢中になって課題に取り組むペアやグループがある。授業者の課題やその下ろし方が絶妙（シンプルでやるのが分かりやすい）である。素敵な授業者ほど言葉が少ない。

いい、これは小中、教科問わず共通している。さて、本日の授業者はどう思ったであろう。本日の授業参観で一番生徒がにこやかに参加していたのはこの時間である。

[教えられなかった私がある]



授業中も終始にこやかに生徒に声をかけ一生懸命である。しかし、「私は大学でアクティブラーニングが教えられていない」が事実である。教えられていないからやらなくていいか？ 教えられていないから自ら学ばなければならないのか？あなたが決める。

[全職員の課題です]



この状況をどう打破するか？教師もつらいが一番つらいのは間違いなく女の子である。「女の子が特になも言わないからこのままでいこう。」で、あってはならない。

座間味小中学校の皆さんありがとうございました。生まれて初めて高速船に乗るという体験もさせていただきました。また、わたしにとっての新たな出会いを提供くださった新垣校長先生にも感謝します。



さて、座間味小中の皆さん左写真、職員室です。皆さんはどんな職員室が居心地がいいと感じますか？どんな子どもを育てたいと願っていますか？そのためどのような授業をイメージしますか？ベクトルをそろえる意義はなんですか？右の写真の校長先生の姿から教師としての使命を感じることはありませんか？いろいろありますが素敵な子ども達と素敵な授業に感謝し、座間味小中の新たな船出にエールを送ります。



国頭学びの会ゆい